語り継ぐ「美しが丘西保木地域」
歴 史 と 文 化

― 地域の変遷・伝統行事・文化財を訪ねて ―

2019 年(令和元年) 12 月 21 日　発行

昭和初期保木の村祭り

発行　美しが丘西保木自治会

刊行にあたって

美しが丘西保木自治会長　横倉 眞

美しが丘西保木地域の土地区画整理事業が竣工して約 30 年、往時の保木地域を知る人も年々少なくなっています。 そこでこの度、美しが丘西保木地域の歴史や文化を語り継ぐためにも、また、ここに住む皆様に地域をより身近に感じてもらうためにも、語り継ぐ「美しが丘西保木地域」歴史と文化　ー地域の変遷・伝統行事・文化財を訪ねてー と題する冊子を刊行して後世に残したいと考えました。

この企画に当たり、美しが丘西小学校の開校以来児童（二年、三年生）に「昔の保木地域はどんなところ」「昔から伝わる文化財・行事」等について「出前授業（地域学習）」を行っておられる、学校・地域コーディネーターの近藤孝氏（前、美しが丘西保木自治会長）に執筆を依頼し、編集委員の皆様の協力を得て編纂、ここに刊行する運びとなりました。

語り継ぐ「美しが丘西保木地域」歴史と文化

ー　地域の変遷・伝統行事・文化財を訪ねて　ー

美しが丘西小学校地域コーディネーター　近藤 孝

今から約半世紀前、1966 年（昭和 41 年）に東急田園都市線が、溝の口駅より長津田駅までが開通して「たまプラーザ駅」が出来た頃より、山内（元石川）地域の開発（土地区画整理事業）が行われ、急速に都市化が進みました。
田園都市線の開通と共に、まず、たまプラーザ駅周辺の美しが丘 1 丁目～3 丁目が開発されて順に 4 丁目、5 丁目、美しが丘東、美しが丘南、美しが丘北等が開発されました。
その後、保木土地区画整理事業が 1978 年（昭和 53 年）から 1990 年（平成 2 年）までの約 12 年間の工期を要して行われ、現在の町の基礎となる「住宅地、道路、公園、雨水調整池、学校用地等」が整備されました。
区画整理事業の竣工に合わせて、1989 年（平成元年）11 月 5 日に町名が「元石川町」より「美しが丘西」に変更になり、保木地域は「農村から町」へと大きく変わりました。

その後、この地域にも商店や病院が出来て、新しく移り住む方も増えました。 それに伴い、地域の皆様の念願でありました「美しが丘西小学校」が 2013 年（平成 25 年）4 月に開校しました。
1966 年（昭和 41 年）田園都市線が開通した頃、約 50 年前の保木地域の住民は約 60 世帯、約 300 人程度でしたが、現在（令和元年）では、約 3,300 世帯、約 1 万人が住む大きな町に発展しました。

この度、語り継ぐ「美しが丘西保木地域」歴史と文化　ー地域の変遷・伝統行事・文化財を訪ねてー と言うテーマで冊子を刊行する事になりこの趣旨に賛同するとともに、美しが丘西小学校の児童（二年、三年生）への出前授業内容等を、保木地域にお住まいの皆様に知って頂く良い機会でもあり、少しでもお役に立てればと思い、今般、執筆をお引き受けして、自治会誌の編集委員の皆さまの協力で作成することが出来ました。

目 次

	刊行にあたって　美しが丘西保木自治会長 挨　拶　　美しが丘西小学校地域コーディネーター	P-1
目　　次		P-2
第 1 章	昔・1965 年（昭和 40 年）頃の保木地域の様子 保木の地名の由来 保木地域の土地区画整理前の様子 1965 年（昭和 40 年）頃の保木地域地図	P-3 P-6
第 2 章	美しが丘西保木地域の変遷 元石川町の遍歴・由来　田園都市線延長　土地改良事業 土地区画整理事業着工　　土地区画整理事業竣工 小学校建設促進委員会	P-7
第 3 章	美しが丘西保木地域の公園名の由来 公園の整備　現在の公園名（10 ヶ所）の由来 追分 ・ 保島 ・ 滝ノ沢 ・ 薬師台 ・ 関原 ・ 早渕台 保野 ・ 保木 ・ よもぎ ・ 山王坂	P-10
第 4 章	美しが丘西保木地域に伝わる文化財 保木薬師堂　　保木薬師如来坐像 保木十社宮 八雲神社（上社　下社） 保木大太鼓 関戸家住宅（エムズハウス）	P-12
第 5 章	美しが丘西保木地域に伝わる行事 元旦祭　　どんど焼き 夏祭り（八雲神社祭礼） 護摩法要（保木薬師堂） 秋祭り（十社宮祭礼 ・ 鷲神社例大祭）	P-17
	美しが丘西保木地域の航空写真　今 ・ 昔	P-20
	美しが丘西保木地域の地図　今 ・ 昔	P-21
	美しが丘西保木地域の主な年表 編集後記　　参考文献　　編集委員	P-22

第 1 章　昔･1965 年（昭和 40 年）頃 の保木地域の様子

「保木」の地名の由来

いつの頃かは不明ですが、荏田村と石川村とで水争いをしていた時があり、その時に荏田村が石川村との境に堤防を築き石川村を水責めにしました。 この時に石川村の保木地域では「木に帆（ほ）を張った舟を出して水から人々を守った」とされ、この時より「帆木（ほぎ）⇒ ホウギ ⇒ 保木（ほぎ）」になったと言う話が伝わっています。

保木地域の土地区画整理前の様子

土地区画整理事業の行われる以前の保木地域 1965 年（昭和 40 年）頃の様子や人々の暮らし等は、次のようでした。

保木地域の様子

地域のほとんどが「山・森・畑・田んぼ」で、幹線道路沿いに民家があり、約 60 世帯 300 名程度の人々が住んでいました（昭和 40 年当時の地図は 6 ページを参照下さい。 人名も昭和 40 年当時のものです。）

【幹線道路】

現在の保木入口より食品館あおば前を通り柿生に抜ける道路と保木入口より追分を通り川崎市（現・清水台）方面に抜ける道路が幹線道路で未舗装（砂利道）の道路でした。（地図の茶色の部分）

【地域の道】

幹線道路より枝分かれして各谷（ヤト）沿いに脇道があり、車一台がやっと通れる細い砂利道が生活道路としてありました。

【主な谷（ヤト）】

谷（ヤト）とは、谷間・湿地のことで、丘陵地が雨水、湧水等により浸食されて形成された谷状の地形で湿地や水田等の農耕地などで構成されていました。 大きな谷としては、滝ノ沢谷、オオカミ台、追越台（おっこしだい）、蓬（よもぎ）谷、権現谷、入の谷、権三ヱ門谷、新三郎谷などがあり、周辺には民家が点在していました。

【地域の呼び名】

昔は、保木地域を大きく分けて、4 つの地名で呼んでいました。 ①保島（現在の西 1 丁目）②保野（西 2 丁目）③関原（西 2 丁目）④剣山（西 3 丁目）

【当時呼ばれていた地名】

山王坂、油面坂、坊が岳（ぼうがたけ）、二十三夜塚、追分坂、七曲坂（S の字坂）、蓬谷、追越台、などがあります。

廿三(二十三)夜塚

【保木で一番高い山】

二十三夜塚（現、西 3 丁目学校予定地）と呼ばれている山で、頂上付近に石の塚が置かれていました。

海抜 95mの山で、頂上の松の木に登ると、遠くには横浜の港も見渡せました。他に保木地域には、権現山、大松山、カマバの山、カラス山等がありました。

【早渕川の源流】

早渕川は、入の谷（現・早渕台公園）あたりを源流として「権現谷」・「滝ノ沢」・「蓬谷」の 3 本の枝沢が流れ込み、現在の保木公園あたりを通り平川方面に地上を流れていました。（地図の水色の部分）各沢筋には田んぼが作られていて、生活の糧として稲作が行われていました。 早渕川は、山内中学校の校歌歌詞の 2 番冒頭に「谷々の水集まりて川となる」とあるように、保木地域内に限っても、早渕川の源流に始まり、大きな枝沢が 3 本有り 田畑を潤す源を作り下流へと流れていました。

【保木の遺跡群】

保木地域には遺跡も多くあり、区画整理に伴い各遺跡の調査も行われました。（地図の赤印部分）追分遺跡、大神台遺跡、追越台遺跡、山王坂遺跡、屋敷跡遺跡、保島遺跡など。

【屋敷神】

各家では、家の守り神「屋敷神」が祀られていました。お稲荷様、不動明王、弁天様、観音様などで、今でも祀っている家があります。

【墓　地】

ほとんどの家には、所有する敷地内に墓地を持っていて、ご先祖の供養もその敷地内の墓地で行っていました。 区画整理後には、個人所有の墓地は東墓地（西 1 丁目）と西墓地（西 2 丁目）の２ヶ所に移されました。

屋敷神（お稲荷様）

保木地域・人々の暮らし

【交通機関】

1965 年（昭和 40 年）頃は、自家用車を持っている家は数える程しかなく、移動手段はバスや自転車でした。 横浜市営バスが「保木薬師前（現在のＨＡＣ前）より荏田を経由して綱島」まで、一時間に１本程度の間隔で運行していました。また、小田急バスが「元石川から向ヶ丘遊園」。川崎市営バスが「稗原から溝の口」まで運行していました。

東急バスは、田園都市線（溝の口ー長津田）の開通に伴い 1966 年（昭和 41 年）４月に、「たまプラーザ駅から柿生駅」が新設されました。

【住　居】

ほとんどの家は、代々続く「茅葺き屋根」の家が殆どでしたが、1955 年（昭和 30 年）代後半より 1965 年（昭和 40 年）代にかけて近代的な木造建築の家に建て替えられていきました。

【家庭の生活様式】

主に農業が主体でしたが、高度成長期（昭和 30 年代より昭和 48 年頃）に入り、農業収入だけでは生計の維持が困難となり、専業農家から兼業農家に変わっていきました。

【水　道】

水道は普及していなかったため、各家庭には井戸がありました。 一部はポンプ式もありましたが、多くは釣瓶式の井戸で水を汲み上げて生活用水として利用していました。 1955 年（昭和 30 年）後半になると電動式の汲み上げポンプの井戸も普及し始め、徐々に水汲みと言う重労働から解放されていきました。

【屋　号】

同じ苗字が多く、屋号（家に付けられた家名）で呼び合っていました。
例えば、「カシャのタカちゃん」などで、地図の人名の（ ）内に表示されているのが屋号です。

【隣　組】

地域では「隣組」と言われる組織があり、1 組から 5 組のいずれかに属していました。
各組内で冠婚葬祭等の付き合いがされていて、現在も葬儀の際にはこの習慣が一部残っています。
（この「組」は、現在の自治会の組・班分けの基礎になっています。）

【通　信】

当時、電話回線が普及していなかったため、地域内は有線放送・電話が活用されていました。
放送局・電話交換所は、現在のＪＡ横浜山内支所（新石川）にありました。

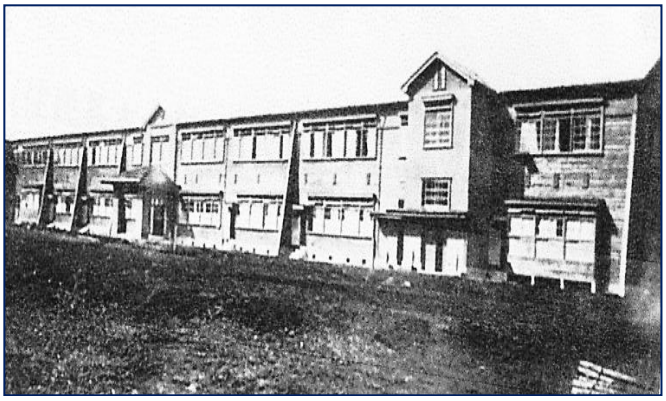
【商　店】

保木地域では「大久保商店（西１丁目、平成 29 年９月閉店）」が唯一の商店で、日用品、雑貨等を販売していました。

1965 年(昭和 40 年)頃の大久保商店

【学　校】

保木地域の子供たちは、小学１年生から３年生までが「山内小学校第一分校」（現、美しが丘５丁目）に通い、４年生から６年生は、本校の「山内小学校」（創立：明治６年）に通いました。
中学校は「山内中学校」（創立：昭和 22 年）で、当時は戦前の兵舎を流用した校舎に通っていました。



1955 年(昭和 30 年)頃の山内小学校

1954 年(昭和 29 年)第一分校の児童

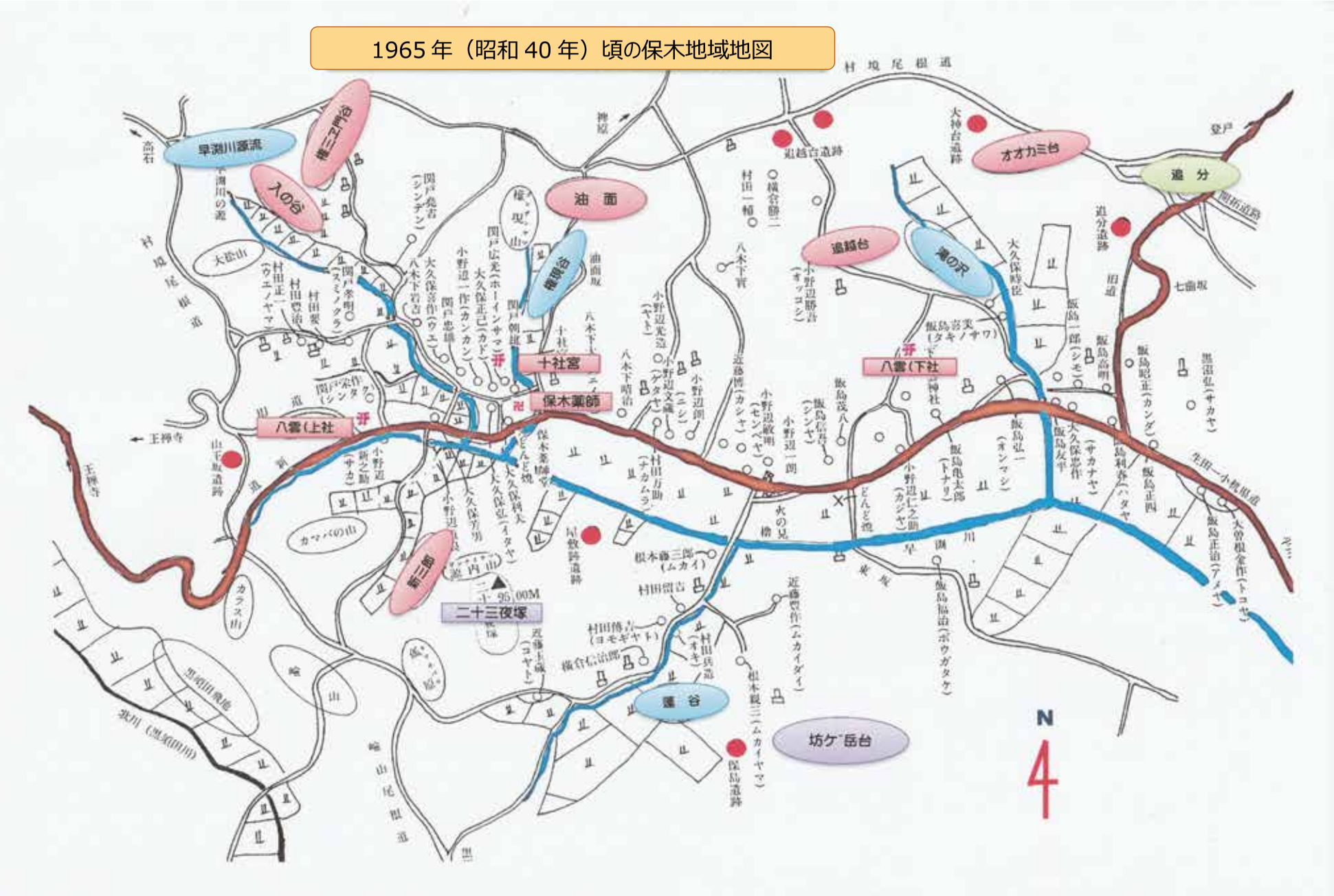
【病院など公共施設】

保木地域には、病院、郵便局等の公共施設がなかったために、山内中学校近くにあった病院等に行っていました。

【子供達の遊び場】

保木地域には、幼稚園、公園等がなかったために子供達は神社の境内や広場で木登りや野球をしたり、早渕川で水泳や魚釣り等の遊びをしていました。

1965 年（昭和 40 年）頃の保木地域地図



第 2 章　美しが丘西保木地域の変遷

元石川町の遍歴・由来

古くは、都筑郡石川村で、1889 年（明治 22 年）の市町村制施行の際に、荏田村と黒須田村の飛び地の、字宇平井谷・松場・免谷・日吉と合併して「山内村大字石川」となりました。
1939 年（昭和 14 年）に、横浜市に編入されて「横浜市港北区元石川町」が新設され町へと変わりました。

田園都市線・長津田駅まで延長

1966 年（昭和 41 年）4 月

今から約半世紀前 1966 年（昭和 41 年）多摩丘陵の田園地帯は、東急田園都市線が溝の口駅より長津田駅まで延長開業して「たまプラーザ駅」が出来、その頃より開発が進み急速に都市化が進みました。

田園都市線の延長工事

開通当時のたまプラーザ駅

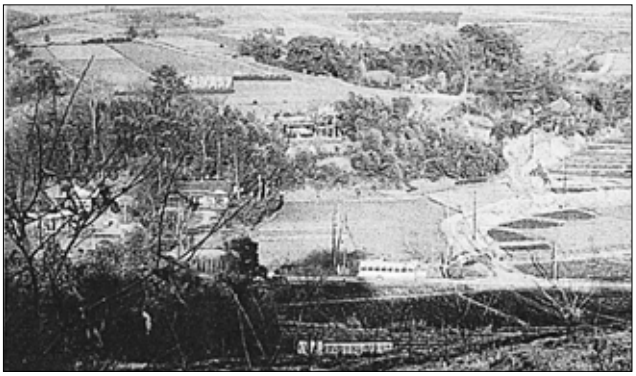
開通当時のたまプラーザ駅前

土地改良事業

1967 年（昭和 42 年）～ 1985 年（昭和 60 年）

横浜市の補助を受けて、保木地域の農業新興の一環として「保木地区土地改良事業・農業専用区域」が通称「坊が岳台」（元石川町）に造られました。「共生の和、甦る大地」（横浜市長・西郷道一氏自筆）の記念碑が保木バス停近くに建てられました。

現在：春の坊が岳台



1955 年（昭和 30 年）頃の元石川町

土地改良記念碑

土地区画整理事業・着工

1978 年（昭和 53 年）6 月

保木土地区画整理事業の開始。（事業主体：東急電鉄株式会社）

区画整理組合設立	1978 年（昭和 53 年）6 月 15 日
施工面積	約 98 万㎡（現在の美しが丘西保木自治会エリア）
総事業費	202 億円（当時の金額）
減歩率	48.39%

住宅地、道路、公園、河川、雨水調整池、学校予定地などの整備が進められて、現在の町の基礎が築かれていきました。

1983 年（昭和 58 年）区画整理中（右写真と同じ場所）

1977 年（昭和 52 年）区画整理前 現在の西 2 丁目

土地区画整理事業・竣工

1990 年（平成 2 年）3 月

1978 年（昭和 53 年）6 月に区画整理事業が始まり、約 12 年の歳月を経て 1990 年（平成 2 年）に区画整理事業が竣工しました。 区画整理事業の竣工に合わせて、1989 年（平成元年）11 月 5 日に町名が「元石川町」から「美しが丘西」に変更になりました。(一部の地域は従来の「元石川町」を継承しました)

この時の町の人口は、 約 400 世帯、約 1,000 名。

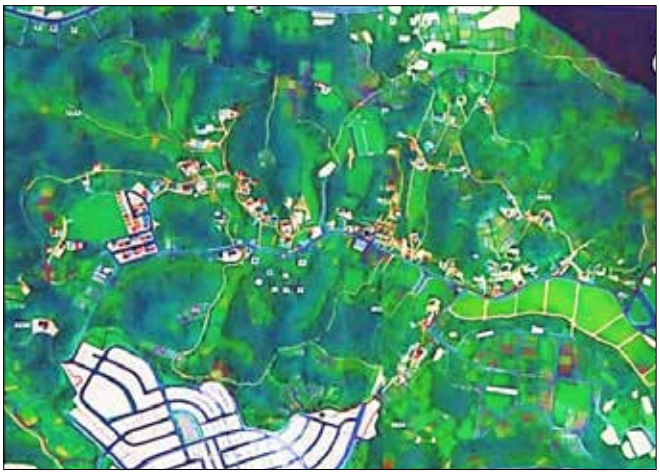
区画整理事業完成記念として「竣工記念碑」が保木十社宮鳥居の脇に建てられました。

竣工後 10 年間は建築協定により乱開発が制限されていました。

区画整理組合解散：1990 年（平成 2 年）3 月

1990 年（平成 2 年）区画整理竣工記念碑

1990 年（平成 2 年）頃 区画整理後のジオラマ



1978 年（昭和 53 年）頃 区画整理前のジオラマ

小学校建設促進委員会

2003 年（平成 15 年）9 月

1990 年（平成 2 年）に区画整理事業が竣工して町名も変更になり、新しい町作りが始まりました。年々新しく移り住まれる方が増えました。 それに伴い子供達も増加し、元石川小学校に通う多くの児童はバス通学をしていました、これを改善するため、この地域に小学校を建設することが必要になりました。 そこで、2003 年（平成 15 年）に自治会の役員が中心となり「小学校建設促進委員会」を設立し、小学校建設促進運動が始まりました。

横浜市長及び横浜市教育委員会等への陳情、地元の皆様による署名活動等、粘り強く活動を続け 2009 年（平成 21 年）に小学校建設が決定しました。 その後に建設工事が行われ、促進運動開始から 10 年後、地元の念願であった「美しが丘西小学校」が、2013 年（平成 25 年）4 月に開校しました。

小学校の設立までの経緯

2003 年(平成 15 年)9 月	保木自治会内に「小学校建設促進委員会」を設立。
2009 年(平成 21 年)	陳情や署名（4,055 名）運動の成果が実り小学校の建設が決定。
平成 21 年～平成 23 年	開校準備委員会で通学区域/学校名/施設/交通安全の要望等を検討。
平成 22 年～平成 24 年	地域の皆様へ工事説明会を実施。
2011 年(平成 23 年)10 月	校舎建設工事開始。
2013 年(平成 25 年)3 月 26 日	工事完了。
2013 年(平成 25 年)4 月 1 日	開校。(開校当時児童数約 800 名)

学校建設工事

新校舎完成

開校当時の美しが丘西小学校

新校舎

第３章　美しが丘西保木地域の公園名の由来

公園の整備

防災備蓄庫

保木地域の公園は、区画整理事業に伴い横浜市条例に従い整備され、現在の場所に「緑地公園」として造られました。

現在、美しが丘西保木地域には大きな公園が 10 ヶ所あります。 この 10 ヶ所の公園は、災害時の「いっとき避難場所」に指定され「防災備蓄庫」が設置されています。

現在の公園名（10 ヶ所）の由来

区画整理において、横浜市の条例に従い大きな公園が 10 ヶ所出来、第一公園より第十公園の名前が付けられましたが、区画整理組合では、地名等を入れた方が良いという意見が多くあり、各公園にふさわしい地名等を入れて現在の公園名となっています。

追分公園

美しが丘西 1 丁目 16

追分公園

追分とは「牛馬を追い分ける場所」を意味しており、そこから街道の分岐点をも意味するようになり、甲州街道と青梅街道の分岐点である新宿追分や、中山道と北国街道の分岐点の信濃追分など各地に地名が残っています。

保木の追分も、元石川町（保木）と川崎市菅生（清水台）とを分ける位置にあり、分岐点を表す地名で付けられています。

保島公園

美しが丘西 1 丁目 5

保島公園

昔の地域名で、飯島姓の方が多く住んでいたことから名前が付きました。保島の「島」は「飯島」の「島」より付けられています。

滝ノ沢公園

美しが丘西 2 丁目 52

滝ノ沢公園

区画整理前の滝ノ沢地域は、谷状の地形となっており、夏でも水が涸れない小さな滝がありました。 そこに剣に竜が絡んだ石造りの不動様が安置されていて「倶利伽羅不動」（くりからふどう）と呼ばれていました。 滝から右手に沢が流れていて左手には用水路があり、その間には水田が広がっていました。この沢は現在の西 1 丁目付近で、他の枝沢と合流して早渕川に注いでいました。 この谷間一帯が滝ノ沢と呼ばれ、沢筋にあった家を「タキノサワ」という屋号で呼んでいました。

倶利伽羅不動

薬師台公園

美しが丘西 2 丁目 8

保木薬師堂が近くにあった所で、その地名を取って薬師台公園と、名前が付きました。

薬師台公園

関原公園

美しが丘西 2 丁目 37

関原公園

昔の地名で、関戸姓の方が多く住んでいたことから名前が付きました。関原の「関」は「関戸」の「関」より付けられています。

早渕台公園

美しが丘西 2 丁目 28

早渕台公園

早渕川の源流の一つであり、この川は小魚も多く住んでいて子供たちの良い遊び場となっていました。 今でも横浜市の北部を流れる早渕川の源流になっています。 川は現在地面の下を流れていますが、ここに川があった事を記憶していくために「早渕」という川の名前に丘を表す「台」の文字を組み合わせて公園の名前にしました。（青葉土木事務所）

保野公園

美しが丘西 2 丁目 16

保野公園

昔の地名で、小野辺姓の方が多く住んでいたことから、名前が付きました。保野の「野」は「小野辺」の「野」より付けられています。

保木公園

美しが丘西 3 丁目 65

保木公園

区画整理完了後に、保木地域の中心地となり、この近くに鶴見川の氾濫を防ぐために、雨水や地下水を一時的に貯めて置くための「雨水調整池」が作られています。 この公園は保木地域で一番大きな公園で、今では多くの子供たちの憩いの場となっています。

よもぎ公園

美しが丘西 3 丁目 5

よもぎ公園

蓬谷(ヨモギヤト）と呼ばれていた地域で、春にはヨモギがたくさん生えていて、地域の方はヨモギの新芽摘みをしていたことから、この名前が付きました。

山王坂公園

美しが丘西 3 丁目 42

山王坂公園

保木から日吉に抜ける急な坂を登り切った高台に山王様（旧八雲神社・上社）があり、この坂は神社の名を冠して、山王坂と呼ばれていたことから、この名前が付きました。

第４章　美しが丘西保木地域に伝わる文化財

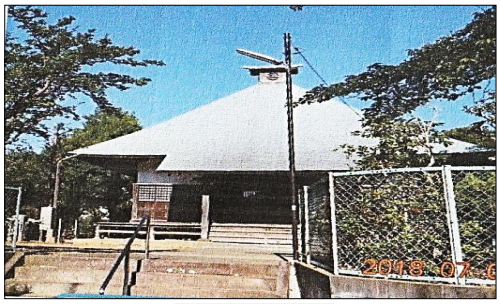
保木地域に伝わる文化財は次のとおりで、今でも氏子や地元の人々により大切に守られています。

保木薬師堂

美しが丘西２丁目 7-2

保木薬師堂は、江戸時代 1708 年（宝永５年）に建立されて、1783 年（天明３年）に建て替えられています。 大工は、清澤村（川崎市高津区千年）の木嶋弥七、藤吉と伝えられています。

薬師堂は、1987 年（昭和 62 年）区画整理事業に伴い、現在地に移転・改築され、茅葺き屋根は銅葺に替えられ、内装外装も整備されました。 ご本尊の「保木薬師如来坐像」は、神奈川県指定重要文化財に指定されています。移転前の薬師堂は、保木自治会館が出来るまで地域の集会所として活用されていました。



保木薬師堂

移転前の薬師堂

保木薬師如来坐像

（保木薬師堂のご本尊）

保木薬師如来坐像は、1221 年（承久３年）鎌倉時代の仏師僧「尊栄」により造立されました。
像高 85.2 ㎝、膝張 72.2 ㎝で納衣を着け、右手を胸前に挙げ、掌を前方に向け、左手は膝上に置き薬壺を載せ右脚を外に結跏趺座しています。 檜材を使った寄木造りで玉眼が嵌入されていましたが、現在は欠損しています。 像表面は錆地布貼漆塗りになっています。 姿勢の良い姿、引き締まった面相等から関東彫刻における鎌倉新様式の享受を示す逸品と言われています。

ご本尊は、1983 年（昭和 58 年）２月に神奈川県指定重要文化財に指定されました。 現在は、神奈川県立歴史博物館に寄託保管されていて、毎年９月に帰堂し護摩法要が行われます。

残念な事に玉眼を失ってしまっていますが、その目の穴より胎内を覗くと「仏像を造る事によって現世も来世も幸せに暮らせるよう、病気その他の願い事をことごとく叶えて下さい」との旨の願文が記されています。 薬師如来の眷属である「薬師十二神将」がありましたが、ほとんどが破損し一部しか残っていません。

※「眷属（けんぞく）」とは 仏・菩薩につき従う神将で、薬師如来には十二神将がいます。

薬師如来座像

端正なお顔

左手の薬壺

薬師十二神将

保木十社宮

美しが丘西 2 丁目 7-3

新編武蔵野風土記によると「十社宮は、石川村の西方によれり」と記載されていて創建年は不詳ですが周辺の状況より推察すると、江戸時代の初期と思われています。1749 年（寛延 2 年）旧社造営大工：八木下金蔵。

この神社は、古来「十社権現社」と呼ばれ、隣接する薬師堂と共に別当満蔵院が代々祭祀を守って来ていましたが、明治維新の「神仏分離令」により「十社宮」と改名されました。

以前の「十社宮」は、1981 年（昭和 56 年）に不慮の火災により焼失して、その後再建されました。

現在の「十社宮」は、1990 年（平成 2 年）区画整理事業の竣工時に現在地に再建されました。

保木十社宮には十の神様が、お祀りされています

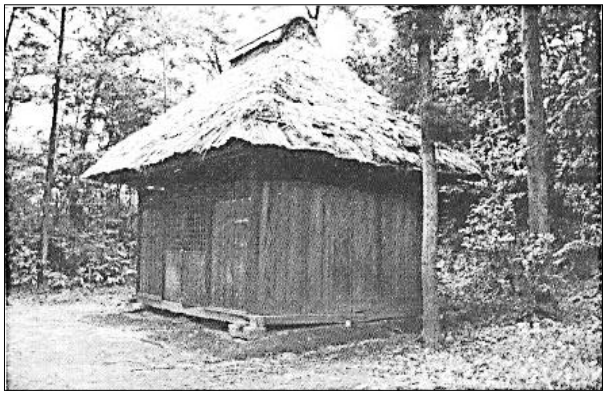
次の「十の神々」を祀る由緒ある神社です。

国常立尊（クニトコタチノミコト）
豊斟渟尊（トヨクムヌノミコト）
沙土煮尊（サヒヂニノミコト）
大戸邉尊（オオトノベノミコト）
大日霎尊（オオヒルメノミコト）
国狭槌尊（クニサヅチノミコト）
泥上煮尊（ウヒヂニシノミコト）
大戸道尊（オオトノジノミコト）
本多和気尊（ホンダワケノミコト）
天兒屋根尊（アメノコヤネノミコト）

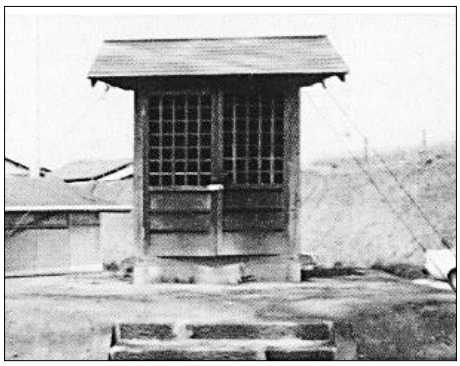
保木十社宮境内の桜

保木十社宮

保木十社宮の神殿



焼失前の保木十社宮（お堂）



焼失後区画整理で仮設された保木十社宮

八雲神社（上社・下社）

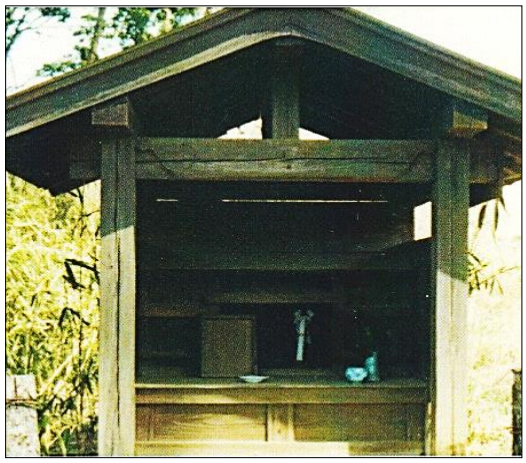
保木地域には、「上社（ｶﾐｼｬ）と下社（ｼﾓｼｬ）」の二つの八雲神社があり、八雲神社の「上社」は十社宮境内（西２丁目）にあり、「下社」は保島公園の脇（西１丁目）にあります。

それぞれに氏子がいて祭祀を行っており、八雲神社の祭礼（天王様）は夏祭りで２日間にわたり行なわれます。１日目の宵宮は上社・下社それぞれ分かれて神事が行われ、２日目の本祭りは、上社・下社合同で行われます。

【八雲神社・上社】 十社宮境内・西２丁目 7-3

昔は、保木より日吉に抜ける急坂の登りきった高台にあり「山王様」と呼ばれていて、近所の人々の信仰を集めていました。区画整理事業に伴い、1992 年（平成４年）７月に薬師台公園の脇に再建されましたが、2021 年（令和３年５月 30 日）に、現在の場所(十社宮境内)に移転(遷座)されました。

八雲神社（上社）



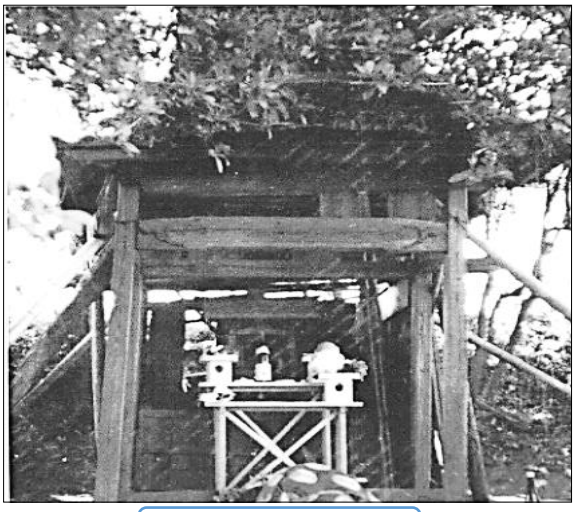
旧・八雲神社（上社）

【八雲神社・下社】 保島公園の脇・西１丁目５

神社内の棟札によると、江戸時代後期の 1849 年（嘉永２年）に再建されています。 また、棟札によると京都八坂神社祭神が「薬師如来」である事から、八雲神社は「天王様」とも言われていました。

現在の神社は、1983 年（昭和 58 年）７月 15 日再建されました。 氏子等 25 名の寄付により材料は区画整理事業で伐採となった用材を使って建てられました。

八雲神社（下社）



旧・八雲神社（下社）

保木大太鼓

保木の大太鼓は、1914 年（大正 3 年）に新調されました。
現在、十社宮の祭礼では各、谷戸宮（各地域）からの鷲神社への神幸行列に際して、神輿等を先導しその先祓いを務めています。

保木の大太鼓

大太鼓の形状

皮面直径：約 90 ㎝、 胴周：約 337 ㎝、 総重量：102 kg
製作は浅草・宮本卯之助商店。 太鼓の胴は、ケヤキ材の大木をくり抜いて造られました。 両打面には牛皮が貼られていて、縁にはチドリ打ちに 334 個の鉄鋲で止められています。

大太鼓の製作

1914 年（大正 3 年）6 月

胴面には、青年会支部・発起人氏名・新調年月日等が刻まれています。
製作費は 寄付金により全額が賄われており、関係者有志や氏子ら、62 名より 274 円 40 銭の寄付があり製作されました。 現在この大太鼓を製作した場合、大太鼓及び台車等を合わせると、約 2,000 万円位になると言われています。

大太鼓の胴面

大太鼓製作までの経緯

かつて、保木地域に「太鼓講中」と言われる祭礼集団が組織されていました。 東京府中の大國魂神社の祭礼は別名「くらやみ祭」と呼ばれていて、当時はこの地域からも「石川保木講中」として加わっており、多い時で約 30 名も参加しました。 活動は明治 30 年頃より昭和 30 年頃までの約 60 年間に亘って続けられていました。 その活動の中で地元の祭礼にも太鼓が欲しいという話が挙がるようになったとされ、氏子及び関係者からの寄付が募られて製作が実現した経緯があります。

大太鼓の皮の張替

大太鼓の胴内

1914 年（大正 3 年）に大太鼓が造られてから、最近では 2011 年（平成 23 年）に両面の張替えが行われました。
太鼓の内部には、皮張替えは「昭和 23 年 3 月」・「昭和 27 年 4 月」とありますが、この太鼓は過去に 5 回程の皮の張替えが行われたとされています。 しかし、2 回分の年しか記載記されていません。皮の貼り替えは、破れた場合を除き、何かの節目等に行われたと考えられます。
お祭りが戦争で一時中止となり、1948 年（昭和 23 年）に復活して、皮の張替え時期が一致しています。1955 年（昭和 30 年）頃より 1965 年（昭和 40 年）前半まで祭りが下火になった時期がありますが、その頃の記載がされていないのではないかと思われます。

大太鼓･100 周年記念祭

2014 年（平成 26 年）5 月

1914 年（大正 3 年）より 100 年目の 2014 年（平成 26 年）に「保木大太鼓 100 周年記念祭」が開催され、記念誌が刊行されています。大正 3 年 6 月に新調された大太鼓が翌 7 月に奉納された事は八雲神社祭礼と一致しており、このことからこの大太鼓は、八雲神社の神幸式に奉納されたと考えられています。

2014 年（平成 26 年）5 月 24 日に「保木大太鼓 100 周年記念祭」が、保木十社宮で服部宮司により神事が執り行われました。

その年の 10 月の保木十社宮の祭礼（驚神社例大祭）では、この地域の総鎮守様の驚神社に奉納に行き 100 周年のお祓いを受けました。

保木の大太鼓

100 周年･記念式典

100 周年･驚神社での奉納式

関戸家住宅（エムズハウス）

関戸家住宅

美しが丘西 2 丁目にある、関戸家が所有している民家は、築 150 年を越す建物で、母屋、穀蔵、文庫蔵が国の「登録有形文化財」に指定されています。 現在は、撮影用の「エムズハウス」として使われています。

※私有地になりますので見学等はご遠慮ください。

文化財防火デー

毎年 1 月 26 日前後に「国の文化財防火デー」に合わせて文化財を火災から守る消防訓練が青葉消防署の主催で行われています。

関戸家住宅の玄関

消防訓練

第 5 章　美しが丘西保木地域に伝わる行事

保木地域に昔から伝わる行事は次のとおりですが、地域の皆様に徐々に知れ渡り、参加される方が年々増えています。

元旦祭

新年元旦（1 月 1 日･午前 0 時）

12 月 31 日の夜より、新年の元旦を迎え保木十社宮への初詣の人々で賑わう「元旦祭」が行われています。

毎年初詣をされる方が増え、2019 年では約 600 名の人々がお参りをされています。 お参りの後で役員（氏子）よりお神酒や甘酒、みかん等が振舞われ、年始の境内は賑わいます。

また、保木十社宮のお札や破魔矢などの頒布も行われています。

元旦祭を待つ保木十社宮

元旦祭を待つ人出

保木十社宮の内部

元旦祭の焚火

どんど焼き

1 月 15 日に近い土曜日

どんど焼きは、1 月 15 日の「小正月」に近い土曜日の午後 2 時より保木公園多目的広場（保木グランド）で行われます。どんど焼きは年神様を送り出す火祭の一種と考えられており、正月飾りや書き初めなどを燃して、その年の「無病息災」と「五穀豊穣」を祈る行事です。保木のどんど焼きは男神と女神を祭るために 2 体のヤグラが組まれます。2019 年の参加者は約 300 名でした。

2 体のヤグラ

男神（石）と 女神（石）

どんど焼き点火

団子･餅焼き

書き初め焼き

夏祭り（八雲神社祭礼）

7 月 14 日に近い土曜日と日曜日

夏祭り（八雲神社祭礼）は、7 月 14 日に近い土曜日、日曜日に行われます。土曜日は宵宮で、上社と下社で神事が行われます。 次の日曜日の本祭は、保木十社宮境内（自治会館広場）で、出店が出て賑わい、スイカ割りなどのアトラクションもあり、「子供神輿」が町内を練り歩きお祭りを盛り上げています。 お祭りには「平川囃子保存会」の皆さんが応援に駆けつけてお囃子の演奏でお祭りに華を添えて頂いております。 2019 年の参加者は約 250 名でした。

子供神輿

町内を練り歩く子供神輿

保木大太鼓

夏祭り・スイカ割り

平川・囃子保存会

護摩法要（保木薬師堂）

9 月 12 日に近い土曜日

護摩法要は、9 月 12 日に近い土曜日の午後 2 時より保木薬師堂で行われます。保木薬師堂のご本尊（薬師如来坐像）は、1983 年（昭和 58 年）2 月に神奈川県指定重要文化財に指定されています。現在は神奈川県立歴史博物館に寄託保管されています。

薬師如来坐像「里帰り」

薬師如来坐像が 9 月に保木薬師堂に「里帰り」をされて、その日に護摩法要が行われます。 この日は、博物館より厳重に梱包されたご本尊が到着されてお堂内に運び込まれ、大勢の参拝者の見守る中で梱包が解かれて博物館の方から説明があり、厨子に収められます。 午後 2 時より満願寺住職によって法話と護摩法要が執り行われます。 護摩法要が終わり次第、その日の夕方には博物館にお戻りになります。

梱包・解き

説明を聞く参拝の人々

薬師堂の厨子に安置されたご本尊

護摩法要

秋祭り（十社宮祭礼・鷲神社例大祭）

10 月の第 2 週の土曜日と日曜日

秋祭りは、10 月の第 2 週の土曜日と日曜日に、保木十社宮祭礼と同時に鷲神社例大祭として開催されます。2019 年は台風のため中止になりましたが、2018 年の参加者は約 300 名でした。土曜日（宵宮）は保木地域の祭礼となり、日曜日（本祭）は、子供たちも参加して鷲神社例大祭が行われ、保木の大太鼓も鷲神社（新石川）に奉納に行きます。

祭礼当日、保木の大太鼓は子供たちを先頭に大太鼓の音を響かせながら、平崎橋近くの佐登屋前まで道路を引いて行きます。 佐登屋前には各谷戸宮（各地域）からの「出し物」の神輿、お囃子などが集まり、その場所で、各出し物の競演が行われます。 その後、保木の大太鼓を先頭に各谷戸宮の神輿、お囃子、獅子舞等が続き、鷲神社へ向けてパレード（渡御）が行われます。

昔・砂利道を行く大太鼓

大太鼓引き始め

道路を行く大太鼓

佐登屋前に集合・競演

鷲神社に向けて出発

保木の大太鼓を先頭に鷲神社に向けてパレード

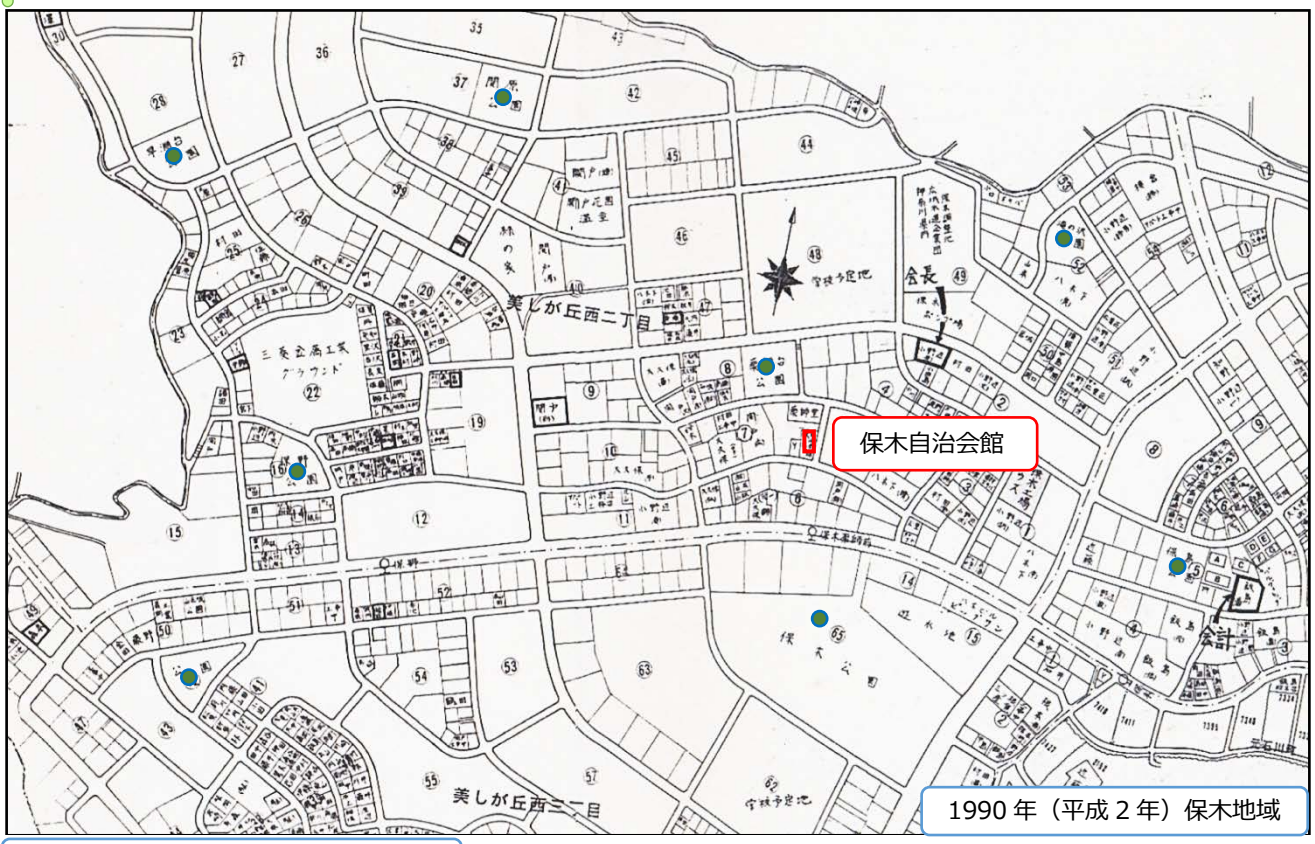
鷲神社

美しが丘西保木地域の航空写真　今・昔

1990 年（平成 2 年）頃･土地区画整理竣工当時

2019 年（令和元年）

美しが丘西保木地域の地図　今・昔



1990 年（平成 2 年）保木地域

● 印・美しが丘西保木地域 10 ヶ所の公園

2019 年（令和元年）美しが丘西保木自治会管内地図

美しが丘西保木地域の主な年表

1914 年(大正 3 年)	保木「大太鼓」の製作
1931 年(昭和 6 年)	保木「大人神輿」の製作
1966 年(昭和 41 年)	田園都市線　溝の口駅より長津田駅間が開通。 約 60 世帯、人口約 300 人
1967 年(昭和 42 年)	保木土地改良事業開始（農業専用地域の造成工事）
1978 年(昭和 53 年)	保木土地区画整理事業開始（町の基盤整備工事）
1985 年(昭和 60 年)	保木土地改良事業竣工
1988 年(昭和 63 年)	保木自治会館（美しが丘西保木自治会館）完成
1989 年(平成元年)	町名変更　元石川町⇒美しが丘西　約 400 世帯、人口約 1,000 人
1990 年(平成 2 年)	保木土地区画整理事業竣工（組合解散）
1995 年(平成 7 年)	保木公園多目的広場（保木グランド）整備
2003 年(平成 15 年)	小学校建設促進委員会発足
2013 年(平成 25 年)	横浜市立美しが丘西小学校開校　児童数約 800 名
2019 年(令和元年)	美しが丘西保木地区の住民　約 3,300 世帯、人口約 1 万人、児童数約 730 名

編集後記

美しが丘西保木自治会　文化体育部長　加藤淳一

私がこの町に移り住んで約 20 年になり、2016 年度より自治会文化事業の窓口を担当していることから、この度、冊子の作成に携わりました。

編集を通して様々な貴重な経験をさせていただきました。 特に自分が住んでいる町だからこそ根付いている文化・行事を知り、実際に触れ、参加・体験を通じて学ぶことが肝心であることを改めて感じました。

また、私たち住民がこの地域の諸先輩方から多くの素晴らしい財産を受け継ぎ、更にはそれを後世に伝えて行く大切さにも気づかされました。 この冊子が皆さまにとりまして、わずかでもこの地域に関心を持っていただける一助になれば幸いです。

最後に、今回の編集に関わった皆さまには、情報交換や、話し合いを通して様々な有意義な時間をいただきましたことに大変感謝いたします。

美しが丘西保木自治会では、「この町に住んで良かったと実感できる町づくり」を基本理念として活動に取り組んで来ました。 この冊子が家族を通して、後世に語り継がれて行ければ幸いに思います。

なお、この冊子の編集に際し以下の文献を参考にして一部を引用させて頂きました。 関係者の皆様のご協力に感謝いたします。

【参考文献】

山内のあゆみ - 石川編 -（1996 年 11 月 1 日）著者 ・ 発行者　：　横溝　潔

保木大太鼓 100 周年記念誌（2014 年 5 月 24 日）：保木大太鼓 100 周年記念事業実行委員会

【改訂記録】

・2021 年(令和 3 年)5 月 30 日：八雲神社

編集責任者　美しが丘西保木自治会会長：横倉　眞

編集委員長　学校・地域コーディネーター　：近藤　孝

編集委員：　山添　忠夫　　加藤　淳一

八木下　浩明　　八木下　直人

1975 年（昭和 50 年）頃･保木航空写真

2019 年（令和元年）美しが丘西保木自治会館